

学生のみなさんへ、

こんにちは、校長です。夏休み前に書いています。全校集会でも同様の内容をお話ししているところですよ。

あっという間に8月になりました。この4月から7月を振り返って、どのような学園生活だったでしょうか。4月から今日まで、学校は、国内や県内の医療体制をはじめとする諸状況を注視しながら、新型コロナウイルス感染症の感染拡大、とくに校内や寮内での人から人への感染者を出さないこと、クラスターを発生させないように努力をしてきました。

授業においては、連休明け、中間試験前の面接（対面）授業から中間試験まで全面登校、そして以降の実験・実習授業等を原則登校としながらも座学においては、遠隔方式をミックスして、少しでも学校での密度を下げることを目指しました。6月21日からは、全面登校しての面接授業を続けてきました。

みなさんも遠隔授業や面接授業との混合形式など、戸惑ったこともあるでしょうが、よく頑張ってくれました。「学校は楽しい」と新入生のオリエンテーションで話しました。楽しいできごと、思い出となるエピソードが増えているでしょうか。続けて学園生活を楽しくしていくためにも、最も重要なこととして、毎日の検温や体調チェック、マスクをはずす場面、とりわけ食事やドリンクの際の人と人との距離の確保はいつも心がけてください。「いつでも、どこでも、だれとでも、人と人との間隔1mから2m、換気とマスク、手洗いを忘れずに・・・」、休み中、いろいろな計画もあると思います。検温と体調チェックアプリへの入力には休み中も毎日続けることになっています。

6月26日から7月まで実施された第59回東海地区国立高等専門学校体育大会は、本校が主管校となっており、みなさん含め5高専の学生、保護者の方々をはじめと体育、競技監督者・顧問、審判団、教職員の方々、三重県、また鈴鹿市、伊勢市、鳥羽市など多くの方々の深いご理解のもとでオンライン実施の弓道競技はじめ、多くの競技を各校の担当で無事に終えることができました。

さて、4月の入学式では、「他人をおもいやり、志をたてて進む」ことを話しました。これは、1年生のみならず、全校の学生さん誰にでも通じることです。

「志をたてて進む」。みなさんの年代は、いろいろな夢を描くことができます。千里の道も一歩から、“急がずあせらずてくてく”と、そして、ときには、逃げるは恥だが役にたつ（壁にあたったら一旦退く）、そして終わり良ければすべてよし。I have done what I have been required. Mission completed です。

ここで大事なこと、物事に取り組むときに「できない」「難しい」ではなく「どうしたらできるか、目標に近づくか」を考えましょう。大人の私たちでも、時としてチャレンジングな目標について、取り組みの実際を考えて、つい「これはできない、難しいな」と判断し諦めがちですが、「どうしたらできるか、目標に近づくかを考えること」は、陥りがちな判断、諦めに対する先人の教え・教訓です。もう一度書きます。「できない」「難しい」ではなく「どうしたらできるか、目標に近づくか」。この夏、じっくり考えてみましょう。そして考えた時間と考えたコンテンツは決して無駄にはなりません。みなさんの頭の中に「知」として「識」として経験として蓄えられます。

次に「他人を思いやる」。休み中は、遠くに友あり、近くの友もあると思います。思いやり、大事です。SNS など、直接対面しない、メッセージや音声だけのコミュニケーションも多いと思います。ネットでつながっていることで友達感、一体感を得られている関係もありまます。チャットもあり、情報をいろいろなメディアを通じて交換するためには、守るべきルールがあります。ひとつひとつのコミュニケーションを大事にしてみましょう。この時機に得た友人のありがたさは、良い思い出ともなり、あるいは同窓生として一生の友人となり長いお付き合いになることもあります。

遠くにいて顔が見えない場合には、相手や自分の今の気持ちや思いが十分に伝わらない場合があります。話し言葉、書き言葉には、ときとして何気ない表現でも相手が傷つくこともあります。前後の状況から、読み手、聞き手がどういう気持ちになっているか、あるいは、このメッセを送ったらどういう気持ちになるか、送信の前に立ち止まってもう一回考えてからメッセしましょう。直接会っているときも、そうでないときも、いつも相手への思いやりが大事です。そうすれば、相手も思いやってくれます。

さて、校内、寮を問わず環境と衛生の維持管理は学校とみなさんの大事な役割です。ポス

トコロナ、ニューノーマル、新しい生活様式の時代を見据えて、これまでの規則を遵守することはもちろんですが、この1 - 2年間の経験を生かした校内や寮での日頃の生活の新たな過ごし方をみなさんと検討していきます。

ここ鳥羽、伊勢、志摩は、豊かな自然と歴史や文化があります。これだけ風光明媚な立地の国立高等専門学校は少ないと思います。みなさんは、在学中にこれらの名勝、史跡、博物館や美術館など、多くに触れることができます。機会を捉えて各所を巡って、見聞をひろめ、また歴史を紐解いてみてください。この地域の歴史にかぎらず、ひろく我が国や世界各国の歴史を知ることは、これまでの先人や国家がどのような状況で、どのような場面でどのような判断をしたか、を知ることになります。それらはみなさんの個々の人生において、在学中はもとより卒業後の社会における、さまざまな岐路、判断を求められる際に、おおいに参考になります。歴史を学べる本や Web はいろいろありますから、ぜひ歴史に触れてみてください。



艇庫風景

校舎前ロータリー風景



本校は、今年で創立140周年を迎え、高専は来年60周年を迎えます。学校の施設整備についても、このような素晴らしい環境の中であって、今後どのように環境整備をしていけばよいか。地域課題研究をはじめ、実験実習、課外活動でお付き合いのある、またお世話になっている地域のコミュニティの方々との連携をより大切に、大事にしながら、温かくも特徴ある、尖った一面をもつ今後の新たな鳥羽商船高専の絵姿を描いていきたいと思っています。学生のみなさんからのご意見をお待ちしています。

夏休みは、考え事をするには良い時間です。とともに、落ち着いて教科書や本（や Web）を読む時間も確保できるでしょう。みなさんは、産業界からおおいに期待されています。モノづくり力にたけた高専こそ、情報技術と掛け合わせた新産業創造をリードできるといわれています。じっくりと、急がず、あせらず、てくてくと、着実に理解しながら一步一步勉強して、もてる力を引き出し、伸ばし、高めていきましょう。

休み明けには、また元気に学校で会いましょう。



校長室前の廊下窓より、商船カニの愛称で親しまれるアカテガニが校舎を登る